

## H30年度学校研究について

## 1. 研究主題及び副題

『自ら考え、表現する子の育成』

～学び合いを通して～

## 2. 主題設定の理由

昨年度は、児童が「わかった」「できた」と学びを実感できることをめざして、研究主題を「共に学び、自ら考える子の育成」とするとともに、学んだことを書く活動を通して確かなものとするために、副題を「つけたい力を明確にした書く活動」とした。取組の重点をアウトプットにつなげるための手立ての工夫とし、重点①を「変容させるための手立て」、重点②を「変容を自覚させるための手立て」として、実践研究をしてきた。取組の成果として、重点①では、「モデル文や成果物の提示」「付箋や短冊の活用」「表の活用」が有効であり、重点②では、「学習のパターン化」「振り返りの充実」が有効であることがわかった。

しかし、その一方で、書く活動を主な手立てとしたことで、手立てが限られたり、書く活動に時間がとられたり、変容を自覚させることに課題がみられた。また、児童の実態として、課題に対して、受け身的であり、自分の思いを伝える力が弱いという課題が新たにわかった。

今年度は、「どの子ども生き生きと学び居心地のよい学校」という学校づくり基本理念のもと、全職員でめざす子どもの姿について話し合い、つけたい力について話し合った。そこから、本校の児童は、「課題を自分のこととして捉え、粘り強く取り組む力」「自分の思いを自分の言葉で表現する力」に課題があることが明確になった。

そこで、研究主題を『自ら考え、表現する子の育成』、副題を「学び合いを通して」として、研究を進めていくことにした。主体的に課題に取り組み、他者との対話的な学びによって、自分の思いを表現することで、一人一人が達成感をもち、それらが、『自ら考え、表現する子』へとつながることを願っている。

## 3. 研究の重点

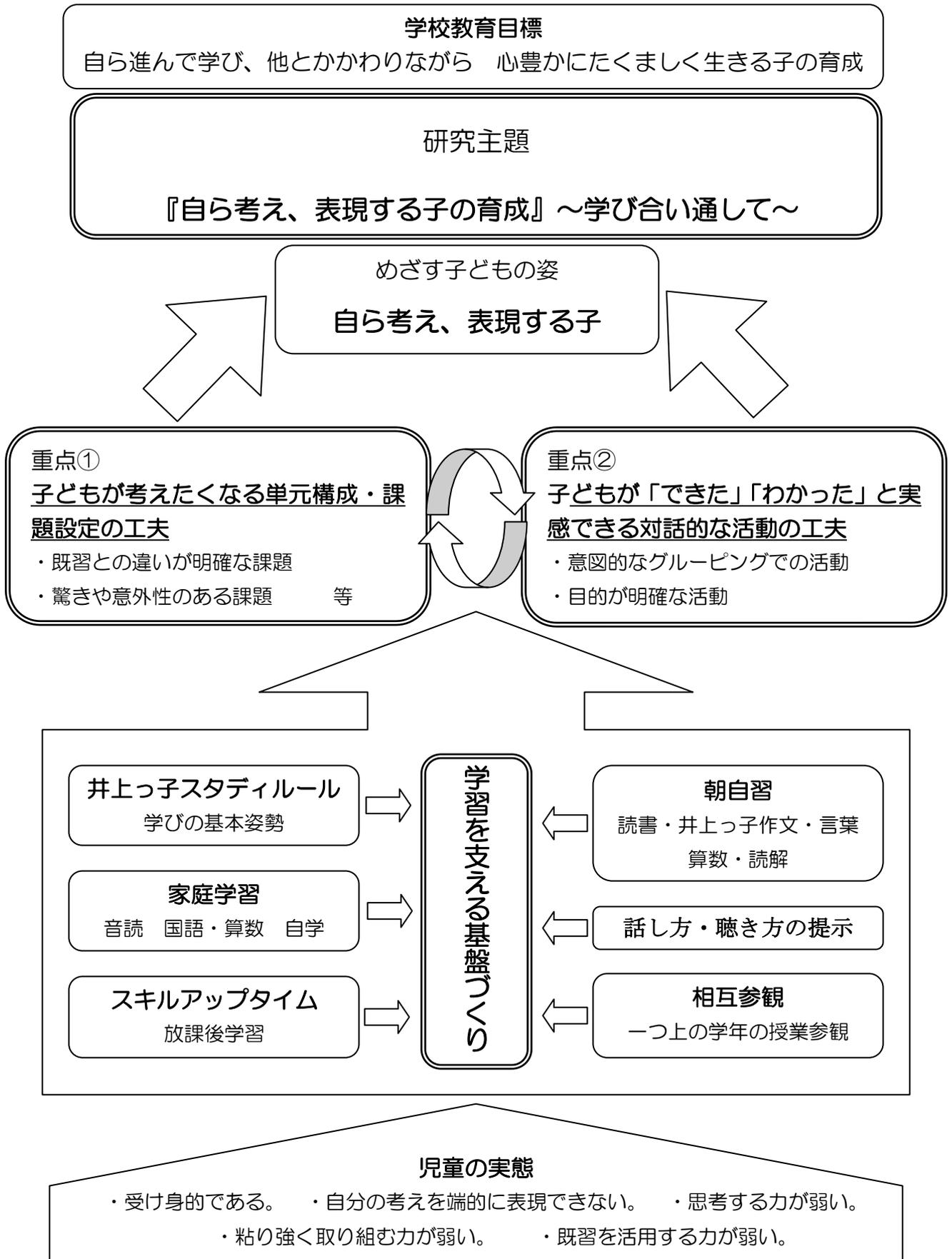
重点① 子どもが考えたくなる単元構成・課題設定の工夫

興味関心をひく学習材を提示したり、既習を生かした導入をしたりすることで、子どもの問題意識が高まり、主体的に考えられるのではないかと考える。

重点② 子どもが「できた」「わかった」と実感できる対話的な活動の工夫

教師の意図的なグルーピングや自分の学びを振り返り場の設定等、対話的な活動を取り入れることで、はっきりしなかった自分の考えやわからなかったことが明確になったり、より確実なものになったりすることで達成感がもてるのではないかと考える。

4. 研究構想図



## 5. 研究の進め方

### (1) 研究授業

- ・ 1人1回以上、研究授業を行う。  
(各ブロックから、1人全体研、それ以外は、ブロック研)
- ・ 全体研授業者は、国語科、それ以外は、指定しない。
- ・ 全体研の事前研は、学習指導部と各ブロックで行う。授業整理会は、全体で行う。
- ・ 指導案は、前日の朝までに配布する。
- ・ 全体研の運営は、学習指導部で行う。ブロック研は、各ブロックで行う。
- ・ 授業者は、授業後、研究通信を発行し、授業の様子や整理会での協議内容を報告し、共通理解を図る。(授業後、1週間以内)

#### <研究授業の予定>

月	5	6	7	9	10	11	12
全体研	提案授業 1の1 池島 5/15 3 限		5の1 小川 7/10		4の2 南 10/21		
低 ブ研		2の1 斉 藤 6/29		1の2 金 子 9/27	2の1 富澤 10/9	おひさま 清水 11/8	なのはな 山 下 12/4
中 ブ研	3の2 宮 谷 5/29	4の1 永 江 6/19			わかくさ 生 瀬 10/30	3の1 綿 谷 11/13	
高 ブ研		5の2 藤 原 6/15		6の1 日 光 9/21		永山 11/6	6の1 河 内 12/6

### (2) 児童アンケート

研究授業後、児童アンケートを実施し、手立ての有効性を見取り、今後の授業に生かす。

### (3) 日々の実践と振り返り

各ブロックで、研究の重点について、研究していく。また、学期末には、研究授業等をもとに、成果と課題を明確にし、今後に生かしていく。

## 6. 共通実践

### (1) 学習を支える基盤づくり

#### ①井上っ子スタディルールの定着

- ①学習の準備をする。
- ②気持ちをそろえてあいさつをする。
- ③息をすって、はっきり話す。
- ④さいごまで聴く。

#### ②話し方，聴き方等の表現力の育成

- ・話型表を提示する。

#### ③朝自習の充実……基礎・基本的の学力の定着を図るため，朝自習を実施する。 学年で内容を統一する。

##### 学習メニュー

月曜 読書（本のジャンルが偏らないようにする。）

火曜 月2回は図書ボランティアの読み聞かせ  
それ以外の日は活用力問題（国語）

水曜 言葉（ひらがな，漢字，ローマ字，アルファベット等）

木曜 井上っ子作文（月2回） 視写

金曜 算数（基礎基本の定着を図るもの）

#### ④ 家庭学習の充実……適切な時間（学年×10分），家庭学習の習慣化を図る。

（内容）音読 + 国・算 + 自学

※家庭学習のすすめを参考にする。

※家庭学習の習慣化を図ることがねらいであるため，  
児童ならないように，学年で統一する。

#### ⑤スキルアップタイム…基礎・基本となる学力の定着を図るための学習を行う。

※火曜日の放課後，全クラスで実施する。

※時間は，15分程度とし，終わった児童から下校する。

※必要に応じて級外が支援する。

#### ⑥相互参観……一つ上の学年の授業を参観し，学びのモデルとする。

※1学期・3学期に1回ずつ行う。

## (2) 学力向上

- ①ニヤティティタイム…転々3年生，5年生対象に，前期・後期で各10回程度，放課後に活用力問題に取り組む。担任以外の教員も協力して行う。
- ②算数寺子屋プリント…算数の学力の定着を図るためのプリントを職員室前の廊下に常備する。
- ③学期末のまとめテストの点数報告…各学期末のまとめテストの平均点と，90点以上の人数を教務に報告し，児童の学習定着度をはかる指標の一つとする。
- ④活用力問題の取り組み…毎学期末に国語の活用力問題に取り組む。毎学期末に同じ問題に取り組む，児童の伸びをみる指標の一つとする。

## (3) 授業力向上

- ① 相互参観…授業を相互に参観し，相互に学ぶ機会とする。
  - ※授業を参観し，「参観カード」を学習指導部（池島）に提出する。
  - ※学期に1回ずつ，参観週間を設ける。
  - ※「参観カード」は，シュレッダー付近に掲示し，共有する。
- ②OJT………計画的に実施し，授業力の向上をめざす。